



2026. August

## 静岡県特集 VOL.01 (通巻VOL.22)

Kumar's特集



外国人介護人材の“リアル”をお届け！

## “支え合い、育てる環境” 外国人職員が定着した 静岡県の介護現場

今回伺ったのは...



今回は、インドから特定技能人材2名を迎え入れた静岡県の「社会福祉法人峰栄会（ほうえいかい）」さん取材しました！  
理事長・受け入れ担当者、そして実際にインド人職員2名に、たっぷりお話を伺っています。「受け入れて、何が変わったのか？」——そのリアルな答えを、ぜひ最後までお読みください

### 「子どもの頃から、日本に来たかった」

今回お話を伺ったのは、インド出身のキミさんとエスターさん。  
お二人とも、峰栄会さんで初めて介護の仕事に挑戦しました。  
「日本はきれいな国ですから、子どもの頃から行きたいと思っていました」と話してくれたキミさん。エスターさんは「日本は安全な国だと思います。それに自分の成長のために、いい国だと思ったから選びました」と教えてくれました。来日前のイメージと違ったことを聞くと、二人が挙げたのは“丁寧さ”と“時間”。  
「日本人はお客様へとても丁寧です。それから毎日時間を守る。素晴らしいです」  
エスターさんも「思っていたよりずっと親切な人が多いです」と、笑顔で話してくれました。



人材が働く

### 静岡県の理事長に質問！

“受け入れて、変わったことは？”

答えて下さったのは...



高杉理事長

職場がガラッと明るくなりました  
キミさんとエスターさんが来てから、施設の雰囲気は本当に変わりました。二人とも一生懸命で、利用者さんからも大人気です。日本語はまだ勉強中ですが、介護についての質問がとにかく多い。その姿に「自分たちも学ぶ姿勢を持たなきゃ」と、日本人職員のスキルアップにもつながっています。

さらに詳しいインタビューは裏面へ

入職して約半年の2人

インド出身の  
エスターさん



インド出身の  
キミさん

### 「わからない言葉は、家で辞書を引きます」

言葉に困ったとき、どうしていますか？そう聞くと、二人はそれぞれの工夫を教えてくださいました。「わからない言葉があったら、家に帰ってから辞書で調べます」とキミさん。エスターさんは「職員さんや利用者さんと話すときは、簡単な言葉とジェスチャーを使います」。毎週月曜日にはオンラインライブ授業を受け、そのあと自主学習を続けています。キミさんは漢字や文法、語彙を。エスターさんは映画や本を教材に。将来の夢を聞くと、「介護福祉士をとって、介護の仕事が上手になりたいです」と、まっすぐな瞳で答えてくれました！



### 「静岡って、どうですか？」と聞くと...

「静岡はどうですか？」と聞くと、二人ともすぐに「住みやすいです！」と笑顔に。エスターさんは「景色もきれいだし、人も優しい。いいところだと思います」キミさんは「田んぼの景色もとても綺麗です」と教えてくださいました。休日は買い物や料理、掃除、勉強、それから映画。キミさんはパソコンでアニメを観るのが楽しみです。好きな食べ物を知ると、キミさんはトンカツ、エスターさんはラーメンと牛丼がお気に入り。この夏は日本人職員さんに誘われて、袋井の花火大会へ。「夏花火を見ました。楽しかったです！」とキミさんの笑顔がはじけました。



# インド人材が働いている

## 峰栄会

### 社会福祉法人

静岡県浜松市

#### なぜ「インド」だったのですか？

浜松には、もともとインドから来ている方が多いです。それに、うちの職員のご主人も仕事で長くインドに駐在していて、「真面目でしっかり働く」と聞いていました。決め手は、先に受け入れを始めていた先輩法人さんからの「一度見学に来ない？」の一言です。

実際に訪ねると、働くインド人職員さんがとても優秀で。そこでZenkenさんをご紹介いただきました。迷ったのは、インドはまだ人口が若い国だということ。万が一、5年勤めて帰国したときに、本当に仕事があるのかどうか。大事なインドの子たちを預かるのですから、しっかり資格を取ってもらって、優秀な人材に育てなきゃいけないなと。宗教も伺っていましたが、介護の仕事をするには関係ありません。

#### 実際に迎えて、現場はどうですか？

もともと他の国の方も受け入れていたので、身構えるところはありませんでした。一生懸命で、真直ぐ。想像していた通り、いえ想像以上でした。違いを挙げるとすれば、やはり英語が話せること。最初の頃、日本語がうまく通じない場面でも、英単語で会話ができたのはとても助かりました。

また、先日、施設でフロアのワックスがけをしたんです。私も二人と一緒に入ったのですが、とにかく**気がつくんです！**雑巾を使うことを見越して、使い終わった雑巾を入れる袋を準備してくれていたり。機材を動かしているとき、コードが邪魔そうだとスツとどかしてくれたり。周りを本当によく見ている子たちだと、心から実感しました。

(宇賀さん)

#### コミュニケーションで、工夫していることは？

「昨日どこ行ってきたの？」から始まる会話です。

私はフロアにいないので、会うのは出勤と退勤のときくらい。それでも必ず挨拶をして、前日のお休みだったら「どこ行ってきたの？」と聞くようにしています。先日の花火大会も、フロアの職員が「みんなで一緒に行こうよ」と誘ってくれたんです。日本語も、本当に上手になってきました。わかってはいるけれど、発するのが難しいだけで、こちらの言っていることはだいぶ理解してくれていると思います。なにより——自分の娘くらいの年齢なんですよね。

自分の娘が海外で一人だと思うと、つい声をかけたくってしまいます。それが正直な気持ちです。

(宇賀さん)



#### 受け入れを考えている施設さんへ

違う視点から介護を良くしてくれる、"仲間"です。

繰り返しになりますが、介護は人が人を見る職場です。国籍や宗教で線を引く必要はありません。特定技能で受け入れたことで、介護の質が「違う視点」から見えるようになりました。キミさんは質問がとても多いです。その一つひとつが、私たちが当たり前にしてきたことを問い直させてくれる。彼女たちは労働力ではなく、日本の介護をより良くしてくれる仲間なんだと、うちのスタッフとも話しています。

(高杉理事長)

最初は『言葉や文化の壁』を心配していましたが、実際採用してみると「真面目で、一つひとつの業務に一生懸命取り組んでくれる」という意見が多数です。彼女たちの素直で真摯な姿勢は、利用者様にもしっかりと伝わり「笑顔が増えた」「元気をもらえる」と好評です！人手不足の解消にとどまらず、施設全体の温かい空気間を作り出してくれたと思います。

(宇賀さん)

#### 7マラの介護のポイントメモ

理事長の「国籍は関係ない、人が人を見る職場だ」という言葉に胸が熱くなりました。キミさんとエスターさんが教えてくれた工夫は「わからない言葉は辞書で調べる」「簡単な言葉とジェスチャーで伝える」2人が自分で見つけたこの工夫、真似したくなりますね！



#### Heidy's Diary!とは？

日本で働く外国人介護人材のリアルをご紹介します月刊紙！インドネシア出身のヘイディが実際の介護現場にお邪魔し、外国人介護人材のお仕事や活躍の様子を独自の目線でレポートします。



#### Profile

##### ヘイディ

自分と同じく日本が大好きな外国人にとって、もっともっと働きやすい国にしたい。みんなの幸せが私の幸せにも繋がる！



#### Instagram

「ケア・いろ」(care\_iro) 外国人介護人材応援メディア Instagramもぜひチェックしてみてください！ 一生懸命更新してます！



#### 職場以外の関係づくりで、意識していることは？

仕事以外でも、自然に誘い合える関係です。

休日、外国人職員さんが一人でお家で家事をしたり、出かけても買い物だけで終わってしまうという話もよく聞きます。でもうちは、フロアの職員が「今度みんなで納涼祭行こうよ」と自然に誘ってくれるんです。仕事の関係だけで終わらせない、そういうスタッフの気遣いが、キミさんとエスターさんにとってもすごく嬉しいことなんじゃないかなと思っています。

(宇賀さん)



#### セミナー参加者募集！

ゼロから学ぶ、長く定着する外国人介護人材「採用・求人票作成」セミナー

▶オンライン開催・参加費無料

2026年11月19日(木) 14:00~16:00

第1部のみ・第2部のみのご参加もOK！

お申込みは右のQRコードから

申込はこちら



<https://x.gd/Hvgkl>

#### 取材 させて頂ける 介護施設様 大募集！！

外国人介護人材の採用・育成・定着に関する相談もお気軽にお問い合わせください！



ヘイディがお伺いします！ お問い合わせはこちら

こちらのメディアでも役立つ情報を発信中！

発行元：静岡県外国人介護人材マッチング支援事業事務局（Zenken株式会社）  
03-4212-2914 FAX 03-4212-2280  
nc-support-shizuoka@zenken.co.jp



共に業界の未来を担う外国人介護人材メディア

ケア・いろ

ケアいろ

